

商店街をもっと見る。もっと知る。

京都商店街新聞

KYOTO SHOPPING DISTRICT PRESS

発行 | 京都府商店街振興組合連合会 〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78 (京都経済センター3階) TEL (075)-342-0301 FAX (075)-342-0302 URL <https://syouren.or.jp>

CONTENTS

インタビュー：ゼスト御池会 | 商店街のSDGs知恵袋：伏見区 子ども京育食堂編 | WEラブ赤ちゃんプロジェクト | みんなで子育てグッドプラクティスコンテスト | まちづくりアドバイザー制度 | オンライン会議の進め方 | 商店街川柳 | and more...



商店街が、話したいこと。

「学生の街」とよばれる京都。

商店街から若い世代へ伝えたいこと、これからの商店街についてを聞きました。

ゼスト御池会

ほらもと まさや

会長 洞本 昌哉さん

京都商店街新聞編集委員長

洞本編集委員長に商店街への今後の期待、私たち大学生と商店街とのつきあい方、そして最後に商店街を応援する京都商店街新聞のこれからについて語っていただきました。始終笑いの絶えない和やかなインタビューの中に、京都の商店街への明るい未来をみることができました。

思っています。商店街を盛り上げることが自分にもプラスになってWIN-WINの関係になるとも考えています。

学生さんたちに伝えたい商店街とのつきあい

商店街は比較的地元の人がやっているの、学生さんには、もっと僕らを頼って色々聞いて欲しいと思います。学生時代の四年間で商店街みたいな地元にとっぶり根をおろしたところに人間関係を作っていくから、お互いにプラスになると思います。例えば、五年ぶりに帰ってきても商店街のおばちゃんもきっとその場所に同じふうに変わず「久しぶりやな」って言ってくれると思う。京都との深いつながりを持っているっていうのは、なかなか観光客にはできないことだと思えます。もっともっと京都を知ってもらって生活を楽しむためにも、学生さんには、地元で長年信用される商売をしている商店街を使ってもらおうのが手っ取り早いんじゃないかな。

私たち学生が商店街取材させていただく際の大切なポイント



取材時の和やかな様子 左から林さん、大橋さん、洞本さん

その商店街にいるおっちゃん、おばちゃん、つまりは人に注目してほしい。そして、色々聞き出してほしいなあとと思う。それと皆さんが大学生だということの利点をいかして、遠慮せんといろいろ聞いたほうがいいと思う。「あんだ、言い過ぎやで」って言われるぐらいのが面白いんちゃうかなど。笑

商店街新聞のこれからについての想い

この商店街新聞が、「俺たちこんなことでうまくいったぜ」っていうような成功事例の情報交換の場になればいいのかなと思っています。新しい若い人たちが世の中に出ていきつかけになるとか、違う商店街の同級生の記事を見て「あいつ頑張るとんねんなあ」っていうふうにも思ってもらえたりするのは嬉しいですね。最終的に商店街がみんなで頑張るために何をするかと考えたときに、この新聞はとても重要な役割を持っていると思います。同じ問題を抱えている仲間と、共有意識を持っている情報媒体だからです。だからこそ、将来的には、紙だけじゃなくて、ウェブでもみれるようにしていきたいです。この新聞は、読者が読みやすく全然堅苦しいものではない、おばあちゃんもおばちゃんも、おっちゃんも気楽に読めるような、みんなが楽しみにしてくれる新聞になればいいなと思っています。この新聞がこれから商店街の仲間たちみんなの役に立つようなものになっていったらいいなと思います。

(文責)平安女学院大学 国際観光学部 林千花 大橋七星

●ゼスト御池会 | 株式会社ふたば書房 | 〒604-8091 京都市中京区下本能寺前町 492-1 ゼスト御池地下街 ☎ 075・223・6300 | FAX 075・223・4567 URL : <https://www.books-futaba.co.jp>

商店街のSDGs知恵袋 — 伏見区 子ども京育食堂編 —

京セラ株式会社 総務企画部 小倉 慎哉さん

社会活動推進課 前田 拓さん

2023年5月29日、「伏見区子ども京育食堂」が京セラ株式会社の主導の元、Gigi 株式会社、京都文教大学の協力により伏見大手筋商店街、納屋町商店街、竜馬通り商店街で始めました。

—「伏見区子ども京育食堂」とは？

事前登録することで、子どもは1日1回無料で商店街の参加店舗オリジナルメニューを注文できる子ども食堂のことで。費用は京セラ株式会社が支援する仕組みになっています。

まずは、京セラ株式会社総務企画部責任者の小倉様、社会活動推進課責任者の前田様に本活動について伺いました。

—活動を始めた経緯は何ですか。

京セラ株式会社では、以前から学術研究支援や文化芸術支援など多くの社会貢献活動を行ってきました。新たな取り組みとして、近年の子どものコミュニケーション機会の減少や食生活の問題などを受け、子どもが健全に育つ支援を行いたいと始めました。実施にあたっては、日頃からお世話になっている地域の皆様への感謝の想いから、まずは本社が所在する伏見区から活動を開始しました。

—商店街と共同活動をする印象やその特長をお教えてください。

商店街は、昔からコミュニティが発達で、人と人との距離がとても近いです。そのため子どもの安心できる居場所として、生活支援を行える環境が整っています。また、

商店街の活性化に繋がることも期待しています。一今後の取り組みについてお聞かせください。

子どもだけで食事をする孤食や、1日に3度の食事を摂ることができない子どもたちが増えているといわれています。そういった子どもたちを対象に支援をする活動もありますが、支援を受けることに抵抗を感じる家庭もあるのも事実です。本活動において対象を限定していないのは、さまざまな家庭環境にある子どもたちの誰もが、安心して利用できる食堂にしたいという思いを込めているからです。

今後も、必要とする家庭の子どもたちに食事の場を提供できるよう、伏見区3商店街の皆様とともに活動を継続的に進めていきたいと考えています。他の地域などからもご要望があれば、活動の拡大を検討していきます。

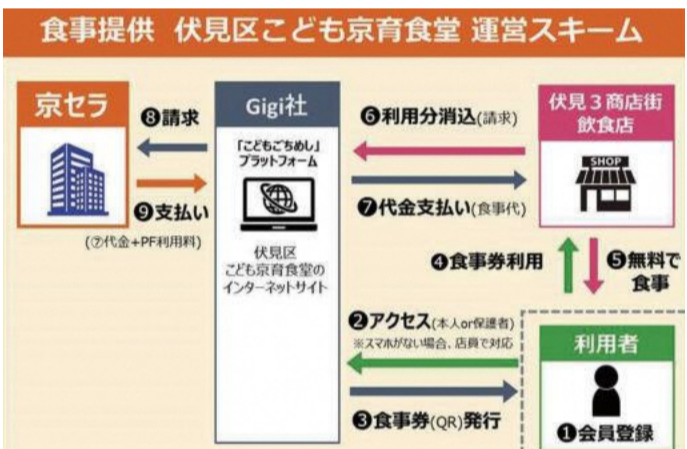


前から小倉さん(左前)、前田さん(右前)、広報の中蔵さん(左後)、ケビンさん(右後)

●京セラ株式会社本社 | 〒612-8501 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6 | ☎ 075・604・3514 | URL : <https://www.kyocera.co.jp/>



活動には若手社員、女性社員も携わっている



前から佐々木さん(左前)、小林さん(右前)、奥田さん(左後)、森さん(右後)

地域への「日頃の感謝」を足し算する

伏見大手筋商店街 理事長 奥田 浩二さん

納屋町商店街 会長 小林 満さん

納屋町商店街 理事長 佐々木 浩二さん

竜馬通り商店街 理事長 森 一起さん

続いて、伏見大手筋商店街の奥田理事長、納屋町商店街の小林会長、佐々木理事長、竜馬通り商店街の森理事長にお伺いしました。

—活動を受けた経緯をお聞かせください。

長年伏見区の3商店街は、様々な協力活動を行ってきました。今回伏見区役所を通じて本活動のご依頼を受け、地域のお客様への日頃の恩返しと社会貢献の気持ちが合致し、活動に至りました。

—企業との共同事業の印象や特長は何ですか。

企業との事業を行ってみて、商店街ネットワーク以外の新たな発信場所として活動に対する認知範囲が広がりました。企業にとってもイメージアップに繋がるため、お互いにWin-Winの関係が取れていると感じています。

これまでの商店街事業は、補助金頼りの部分が多い問題がありました。今回は企業との共同事業ということで、企業から資金提供があることは大きく、事業継続の1つの解決策としても重要性を感じています。

—今後の取り組みについてお聞かせください。

今後も継続して活動を進めていきたいと考えています。多くの反響をいただき、地域との関わりが増えた

ように感じます。積極的に子どもと関わることで、様々な境遇の子どもを知ることもできました。ただし現行では、対象が2つの公立小学校に限られているため、違う学区の子どもでも利用できるような進めていきたいです。また、保護者が注文せずに席に座ったり長居したりする問題も出ており、子ども食堂は店の基本業務の中でやっているため、利用者への活動の理解も進めていきたいと考えています。

地域への感謝の気持ち、強い奉仕の精神を感じました。違う立場であっても同じ志を共にすることで、お互いの活動を深化させることができると分かりました。それぞれの機関が役割や長所を活かしていくことが求められるのではないのでしょうか。

●伏見大手筋商店街振興組合 | 〒612-8055 京都市伏見区伯耆町10 | ☎ 075-601-0558 | URL : <http://otesuji.jp/>

●納屋町商店街振興組合 | 〒612-8363 京都市伏見区納屋町120-2F | ☎ 075-611-0118 | URL : <https://nayamachi.or.jp/>

●竜馬通り商店街振興組合 | 〒612-8365 京都市伏見区車町273 | URL : <https://ryomadori.com/>

子育てにあなたかな商店街をめざす

泣いてもかましません！

WEラブ赤ちゃんプロジェクト

WEラブ赤ちゃんプロジェクトとは、公共の場で泣き始めた赤ちゃんを、懸命に泣き止ませようと焦るママの姿をきっかけに始まった取り組みで、周囲が「焦らなくても大丈夫」「泣いても気にしませんよ」という受容の気持ちで、ステッカー等で見える化することでママ・パパを優しく見守り、子育てにあなたかな風土をつくります。

「子育て環境日本一」の実現に向けて、子どもや子育て世代を社会全体で、あなたかく見守り支え合うオール京都の推進体制を構築するため設置された「京都府子育て環境日本一推進会議」は、子育て世代を応援するため、「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」に賛同しました。

経済界・各種団体・行政等が共同で賛同するのは全国初となります。

京都府限定の「泣いてもかましません！」ステッカーを作成しましたので、

WEラブ赤ちゃんプロジェクト

WEラブ赤ちゃんプロジェクトとは、公共の場で泣き始めた赤ちゃんを、懸命に泣き止ませようと焦るママの姿をきっかけに始まった取り組みで、周囲が「焦らなくても大丈夫」「泣いても気にしませんよ」という受容の気持ちで、ステッカー等で見える化することでママ・パパを優しく見守り、子育てにあなたかな風土をつくります。

「子育て環境日本一」の実現に向けて、子どもや子育て世代を社会全体で、あなたかく見守り支え合うオール京都の推進体制を構築するため設置された「京都府子育て環境日本一推進会議」は、子育て世代を応援するため、「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」に賛同しました。

経済界・各種団体・行政等が共同で賛同するのは全国初となります。

京都府限定の「泣いてもかましません！」ステッカーを作成しましたので、

詳細サイトはこちら▼
URL | <https://www.pref.kyoto.jp/shoshi/news/weloveakaty.html>

赤通新町西入敷ノ内町
TEL 075-414-4602
FAX 075-414-4792
kodomo@pref.kyoto.lg.jp

京都府「こどもまんなか応援サポーター宣言」 みんなで子育てグッドプラクティスコンテスト開催

こどもまんなか応援サポーターとは
こども家庭庁が掲げる、こどもたちのために何がもっともよいことを常に考え、こどもたちが健やかに成長できるような社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に共感・賛同し、自らもアクションに取り組む地方自治体や個人・企業、団体のみなさんです。

宣言動画
西脇知事による宣言動画を府公式 YouTube や SNS で公開しています。
「西脇知事が「こどもまんなか応援サポーター」に就任！」 <https://www.pref.kyoto.jp/kikaku/kosodate/news/kodomomannaka.html>

「みんなで子育てグッドプラクティスコンテスト」エピソード募集中！
(募集期間) 令和5年7月1日(土)～8月31日(木)
(募集内容) 子育て中に地域や外出先等で周囲の人から、かけてもらって嬉しかった言葉、厳しいが心に響いた言葉など、自身が遭遇した「心温まる」エピソード ※文字数制限なし

(エピソードの例)
・ベビーカーでの外出中に階段前で困っていたら、周囲の人が助けてくれた

・こどもに注意していたら、「こうやって教えるといいよ」と周囲の人に逆に教えられた

(応募要件) 子育て中の方または子育て経験のある方(京都府民以外も応募可)

(応募方法) 専用応募フォーム (<https://pref-kyoto-akachanrelay.jp/>) から応募



有識者による選考を行い、以下の賞を選出(10月中旬頃発表)

- ・最優秀賞(1名)
[丹波牛霜降焼肉 500g(2～3人前)]セット
- ・優秀賞(若干名)
[WE ラブ赤ちゃん] オリジナルタンブラー

・応募者の中から抽選で100名に京都サンガF.C. 又は京都ハンナリス観戦チケットを贈呈

優秀作品は、オリジナル動画やアニメーション化し、京都府 SNS やホームページ等で公開されます。

●みんなで子育てグッドプラクティスコンテスト事務局(株) 関広内 〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル蔭絵屋町256番地 ☎075-212-5221 (受付は平日 10:00-18:00) FAX: 075-231-4677 E-MAIL: info@pref-kyoto-akachanrelay.jp

これから始める！

オンライン会議の進め方



新型コロナウイルス対策や、働き方改革の推進を受け、会議や学校の授業なども非対面となり、ここ数年で会議の形式が多様になりました。そこで注目されたのが、オンライン会議ツールです。自宅や出張先など異なる場所から会議に参加することができ、今では授業や、講演会、セミナーなど……。さまざまなシーンで活用されています。オンライン会議を、これから使い始める方もいるのでは？という編集委員会での話から、このコーナーでは今すぐできるWEB会議の設定から開催方法をご紹介します。

●サインアップ(アカウントを作成します)
誕生日・メールアドレス・名前を入力し、サインアップのアイコンをタップ

●メールアドレスに「Zoom」アカウントからメールが届いたら、メール文中の「アカウントをアクティベート」をタップ

●パスワードを設定
これで登録は完了です！

ここからは、会議(以下ミーティング)への参加方法、ミーティングを主催する方法についてお伝えします。

●メールなどで、ミーティングのリンクを受け取っている場合

メールに書かれている、リンクをタップするだけでミーティングに参加できます。

●ミーティングを主催する場合

●「Zoom」アプリを起動

●トップ画面でオランダのアイコンをタップし、「ミーティング開始」を押せば、自分が

主催するミーティングが始まります。

●他のユーザーを招待する場合

ミーティング画面端にある、「参加者」をタップして、他の人を招待します。左下に出てくる「招待」を押すと「メッセージ送信」「招待リンクのコピー」など招待する方法が選択できます。相手にとって都合のよいツールを選び、ミーティングのリンクを送信してください。相手はそのリンクから直接ミーティングに入ってくることができます。

●ミーティングを終了する

●招待された場合は画面内にある「退出」ボタンをタップし、「ミーティングから退出」します。

●主催者の場合は、「終了」ボタンをクリックすると、「全員に対してミーティングを終了」をタップします。

ミーティング中に音や映像を消したい時は、「ミュート」をタップすれば相手にこちらの音は聞こえなくなります。また、席を外す時など

「カメラの停止」を押せば、相手はこちらの映像を見ることができなくなるなど、その他にもさまざまな便利機能があります。

ぜひ、用途に応じてオンライン会議の活用を検討してみてください。もしも、わからないことがあれば、その時はオンラインで近隣の学生さんや若い世代のみなさんに、聞いてみてください。

新たな商店街内のコミュニケーションが生まれ、活性化のきっかけになる可能性秘めているかもしれません。

●オンライン会議ツール「Zoom」のダウンロードはこちら
URL: <https://zoom.us/>



商店街 / 店主のみなさまへ 掲載情報、編集メンバー、川柳 広告も。現在、大募集中です。

「これってどういうこと?」「うちの自慢を記事に」、「後継者を探したい」、「編集に参加してみたい」などなど……。商店街での取り組みやお悩み、情報を共有し、自分ごととして考える。そんな身近な商店街新聞をめざすために、京都の商店街・店主のみなさまからの情報を随時募集しています。ぜひお気軽にお問い合わせください！

お問い合わせ先
■京都商店街新聞 編集部宛
E-mail / kyoto.shotengai.shinbun@gmail.com
■商店街川柳 応募フォーム
URL / <https://forms.gle/YJ9oGc4YArgPpgVX6>

編集部宛フォームはこちら▼



まちづくり事業の企画や運営で悩んだら……
知っておいてほしい制度をご紹介します。

まちづくり アドバイザー制度 をご存知ですか？

まちづくりアドバイザー制度は、地域の自主的な活動を支援し、各区役所・支所が実施するまちづくり事業の企画・運営への助言を行うまちづくり活動の専門家として、平成18年度に創設されました。はじめは3名体制でスタートしましたが、その後、徐々に増員し、今では区役所・支所及び地域コミュニティサポートセンターに1名ずつ、計15名のまちづくりアドバイザーがいます。

区役所・支所を担当するまちづくりアドバイザーは、地域コミュニティの活性化に向けた地域への取組への支援や、自治会・町内会の加入促進に係る支援、区基本計画推進のための区民まちづくり会議の企画・運営、各区の魅力や情報の発信に関する助言などを行っています。中には、地域の知名度を向上させるため、地域の社寺や飲食店と連携して、メディアやSNSでの魅力発信やイベントの企画を区役所と一緒に支援したり、自治会・町内会役員の負担を軽減するために、効率的な情報発信を目指したICT化への助言を行ったりしています。

地域コミュニティサポートセンターを担当するまちづくりアドバイザーは、各まちづくりアドバイザーと連携、情報共有しながら、地域コミュニティ活性化に向けた支援を行っています。昨年度は、各まちづくりアドバイザーから収集した情報や、実際にヒアリングをして得た情報をもとに、「自治会・町内会『困った時のヒント集』(Vol.2)」を制作しました。他にも、庁内向けの「地域コミュニティサポートセ

ンター通信」を発行するなど、地域コミュニティへの関心と理解を深める取組を進めています。

詳しいまちづくりアドバイザーの活動については、京都市情報館(京都市ホームページ)に「まちづくりアドバイザー活動事例集」を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

今後も、まちづくり活動の専門家として、地域に寄り添いきめ細かな支援やアドバイスを行っていきますので、お気軽にお住まいの区役所・支所もしくは地域コミュニティサポートセンターのまちづくりアドバイザーにご相談ください。

「京都市情報館(京都市ホームページ)まちづくりアドバイザーについて」

商店街川柳

日常のひとこまを川柳にしてみませんか？

商店街 おせっかいが心地よい
新聞編集委員 A

アーケードさんぽのつもりが買い物に
新聞編集委員 B

楽しいな歩いて楽しい 商店街
新聞編集委員 C

オススメを聞いて気がつく衣替え
新聞編集委員 D

おばちゃんとお話はずむ笑店街
新聞編集委員 E

商店街川柳の応募フォームはこちら▼